

2	一宮	大和中学校	名前 アダチ マモル 足立 守
---	----	-------	-----------------------

分科会番号 1	国語教育（文学その他）
---------	-------------

## 研究題目

### 「主体的・対話的で深い学びを引き出す国語指導」 —「故郷」の実践を通じた話し合い活動—

#### 1 研究の概要

##### (1) 主題設定の理由

本学級の生徒は、授業中にペアやグループ活動で意欲的に話し合うことができる生徒が多い。しかし、自分の意見を全体場で発表できる生徒は少なく、そのため、よい意見があっても学級に共有されることがなかった。苦手意識をもっている生徒は、自分の意見が違っているのではないか、この意見は自分だけかもしれない、と自分の意見に自信がもてず、主体的に参加することができなくなっているのではないかと考えた。

1学期に学習した「握手」では、各場面の登場人物の言動から、心情を考えて整理し、最後に語り手の「私」の行動がどのような意味をもつのか考えさせた。自分の意見をグループで交流した後に学級全体で発表する際には、普段から発表し慣れている生徒の意見が発表されることが多かった。のちに生徒のノートを点検すると、よい意見が発表されないまま残されていることに気づいた。

そこで、本単元では、文章の描写や表現から登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、スプレッドシートなど意見を共有できるツールを活用して、自分の意見を表現するハードルを下げて、慣れさせることで、積極的に自分の意見を示すことのできる生徒を育てたい。また、主人公を取り巻く状況や他の登場人物と会話する場面の描写や表現に注目して、登場人物の心情や人間関係の変化、もののとらえ方を本文を根拠に考えることのできる生徒を育てたい。

本研究では、登場人物の心情や関係の変化を確認した後に「私」にスポットを当て、心情の変化についてさらに読みを深める。グループで話し合いを行って解釈の違いについて意見

交換をし、jamboard やスプレッドシートを用いて学級全体で交流させることで、登場人物の心情の変化をよりの確に捉えさせる。また、関係の変化が起きた理由を、時代背景や「でくのぼう」などのルントウに関する表現、彼を取り巻く状況がわかる表現に注目して考えさせる。さらに、ルントウと再会した「私」の心情を「悲しむべき厚い壁」が何か明らかにして書かせてから発表させる。

これらの学習活動を通して、登場人物の様子や行動の描写に注目して心情を読み取らせたい。また、情景描写、置かれている状況などに注意して読む力を身につけさせ、そこから登場人物の心情を読み取ることができるようにしたいと考え、主題を設定した。

## (2) 目指す生徒像

本研究では、本文の描写を基に、場面の展開や登場人物の関係、心情の変化などを適切に捉えることのできる生徒を育てることを目指していく。

## 2 研究の仮説と手立て

### 【仮説①】

前時に扱った場面と本時の学習内容を関連づけることで、主人公の心情を適切に捉えることができるだろう。

#### 〈手立て①〉

前時に扱った場面を再度読ませる。本時と関係がある描写を探することで登場人物の心情が最も大きく変化した部分を捉え、本時のめあてに迫ることができるようにする。

### 【仮説②】

グループでの話し合いの中で、意見を交流することで、自分の考えを深め、主人公の心情を適切に捉えることができるだろう。

#### 〈手立て②〉

個人で考えた意見を jamboard やスプレッドシートに入力して意見が目で見えてわかるようにする。その後、グループで話し合いを行い、意見を共有する。

### 【仮説③】

人物の発言や行動、状況や人間関係を示す描写を丁寧に読むことで、主人公の心情を適切に捉えることができるだろう。

#### 〈手立て③〉

本時で学習した「私」の言動や様々な描写を根拠として、「悲しむべき厚い壁」の存在に気づいたときの「私」の心情を捉えさせる。

### 3 研究の実践

#### (1) 単元名 「故郷」

#### (2) 単元の目標

- ① 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【思考・判断・表現】
- ② 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考・判断・表現】

#### (3) 指導区分（6時間完了 本時 4／6）

- ① 作品の歴史背景を知る。
- ② 場面の設定や登場人物どうしの関係を捉える。
- ③ 登場人物の心情や関係の変化を捉える。
- ④ 再会の場面で主人公が感じたことを考える。…本時
- ⑤ 主人公の思いを捉える。
- ⑥ 批評文を書く。

#### (4) 本時の目標

登場人物の心情や相互関係の変化を読み取り、関係の変化に気づいた「私」の心情を捉える。

【思考・判断・表現】

#### (5) 指導内容（第4時）

- ① 前時の学習内容を確認する。
  - ・登場人物の関係を捉えるために、前時で学習した登場人物の心情や関係の変化を確認する。
- ② 「私」の心情が最も変化した部分を確認する。
  - ・ルントウと「私」の関係が決定的に変わっている瞬間を探す。
- ③ 登場人物の心情や相互関係の変化を読み取り、関係の変化に気づいた「私」の心情を捉えるという本時の目標を知らせる。
- ④ 「悲しむべき厚い壁」とは何か考える。
  - ・「悲しむべき厚い壁」がどのようなことを意味しているのか問い、それを捉えるには教科書を読み、描写を探す必要があると伝える。教科書 P105L19～P109L7 から、ルントウと「私」の現在の関係がわかる部分に線を引く。
- ⑤ 3～4人のグループで意見を話し合う。
  - ・グループごとの jamboard に意見を書く。各自の意見を付箋で貼ってから、グループで検討して、意見を集約する。後でグループの意見を発表することを伝え、発表者を決める。
- ⑥ 出た意見を全員で共有する。
  - ・各グループの jamboard を生徒個人のタブレットに表示させ、代表者にグループでの話し

合いの結果を発表させる。出た意見を板書で整理する。

- ⑦ 「悲しむべき厚い壁」がルントウとの間にできてしまったことに気づいた「私」の気持ちについて考える。

・文章中の「私」の言動を根拠に、「私」の気持ちをスプレッドシートに書く。その後、出た意見を全体で確認して、的確に捉えられている意見のセルに印をつける。

- ⑧ 本時のまとめをする。

・ルントウと再会した時の「私」の心情を、「悲しむべき厚い壁」とは何かを明らかにし、まとめる。

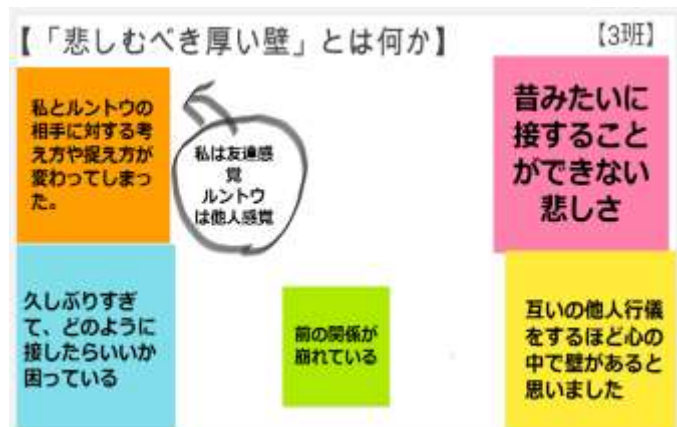
#### 4 成果と課題

- ① 意見の発表が苦手な生徒への手立てについて

ペアやグループなどの小集団で意見の共有を行うことで、周りに自分の意見を届けやすくなり、かつ、落ちついて他の意見と比べることができるようになった。また、代表者にグループの意見を発表させることで、代表者が発表で困らないように一人一人が積極的に意見を発表している姿が見られた。しかし、話し合いをする際に、相手の発言に疑問をもっているのに質問できなかったという生徒や話し合う時間が少なかったという生徒がいたので、話し合いのきまりや時間配分について改善すべきであると考えた。

- ② タブレット端末の活用について

「jamboard」を各グループのシートを共有設定にして使用させた。目的は、「悲しむべき厚い壁」が何かを明らかにする際に、生徒から様々な意見が出てくると考えられたので、それらを視覚的に共有でき、かつ、意見を発表することが苦手な生徒でも、付箋機能を使うことで意見の



表現がしやすくなり、活発に話し合いに取り組ませることができるためである。以前の授業では、B4の紙と付箋を使って、個人の意見を発表させたり、話し合いをさせたりしていた。タブレット端末の操作に慣れていない生徒でも簡単に取り組めるという良さがあるが、時間がかかったり、実物投影機で鮮明に映らなかったりするなど、問題点が多かった。jamboardはその問題点を解消できるツールであり、多くの生徒が使い慣れていたこともあるので活用した。よかった点は、意見の共有がしやすい点である。他の意見が目で見確認できるので、グループや学級全体で意見の共有がしやすい。そのため、自分と同じ意見や異なる意見に触れる機会が増えて、より深く思考することができた。

### ③ 話し合いの内容について

「悲しむべき厚い壁」とは何か、について話し合わせた。該当の部分から根拠となる描写を探させて、自分の意見を書かせた。その時に「上下関係が『できた』『壁が『生まれた』』といった読み取りをする生徒がいると予想された。そこで、「私」と「ルントウ」のそれぞれが置かれている状況を本文で確認させた。例えば、前時では少年時代の二人が仲睦まじく接している場면을学習した。このときの二人の関係性と現在の関係性を比較させた。昔、主人の息子と使用人の息子という「上下関係」はあったが、幼少期はそれを意識していなかったこと、現在の二人はそれを意識してしまったことに気づかせ、「上下関係に『気づいた』『壁を『意識した』』といった読み取りをさせたいと考えて実践したが、うまく引き出すことができなかった。

その原因は、上下関係「ができた」と「に気づいた」の表現の微妙な違いに気づかせられなかったことである。「私」と「ルントウ」の関係が変化していったことを捉えることができていたが、身分の差や二人の立場などの描写が本文に少なかったことで、二人の置かれた立場について読み取りが十分にできていなかったためと考えられる。前時までのところで学習した時代背景や幼少期の二人の関係と関連性があるという考えに至らせることができなかったことは課題である。

### ④ まとめ方について

「私」がルントウと再会したときの心情を、「悲しむべき厚い壁」が何かを明らかにしながらまとめさせた。これまで学習した内容をまとめるとなると、難しく感じて、どう書けばいいのか悩んでいる生徒が出てくるだろうと思った。そこで、他の生徒の意見をリアルタイムに見て参考にできるスプレッドシートを用いて、まとめを考えやすく表現しやすい方法で書かせた。その結果、多くの生徒が積極的にまとめを書くことができた。また、「昔は気にしていなかった身分の影響で態度が変わり二人に心の距離が生まれ昔のように話せなくなり悲しい」のように前の場面と関連づけながらまとめを書く生徒が多くいたので、ねらいに迫ることができたと考えられる。

番号	「悲しむべき厚い壁」がルントウとの壁にできてしまったことに気づいた「私」の気持ち
4	昔のように話すことができなくて、寂しい
5	私自身が望んでわけでもない壁ができたことに対する辛い気持ちと、この上下関係にたいして恨みをもった気持ち。
6	昔は仲が良かったのに、今では召使のように話さなければいけないという事実が悲しい。
7	昔のように気軽に話せなくて悲しく気まずいという気持ち。
8	昔のようになにを作れる壁のない関係には戻れないというのが悲しい。
9	過去のルントウと同じように話すことができなくて気まずさと悲しい気持ち。
10	もう昔のような関係には戻れないのだから悲しく思う気持ち。
11	
12	どんな格差があったとしても、接し方は変えないで寂しかったのがつらくなる気持ちと、辛い気持ち。
13	壁ができて、昔のようには話せられないのが不安。
14	再会することができたが、昔には戻れないという悲しい気持ち。
15	ルントウと昔のように仲の良い関係ではなくなって寂しい気持ち。

しかし、スプレッドシートは、否応なしにほかの生徒の意見が目に入ってしまうので、自分の力で学習内容をまとめさせるという点で、不十分なところがあった。代わりにGoogleフォームを使用すれば、他の生徒の意見を見ることなく、まずは、自分の力でまとめを書くことができるようになる。さらに、生徒の意見が送信されたスプレッドシートを学級全体で共有すれば、書くことに不安のある生徒は、後で他の生徒の意見を見つつ、自分の意見を修正できるという安心感

をもつことができる。以上のことから、今回の学習活動では、スプレッドシートよりもグーグルフォームの方が手段として適切だったと考える。

## 5 本研究を通して

この文章は、「悲しむべき厚い壁」とは何か、につながる描写が多くある。本時で深く考えられるように第1時から第3時までに関連する場面や描写について触れてきた。そうすることで、場面ごとに区切って読むことはできない、当時の社会、身分の差、登場人物を取り巻く状況、人間関係などから総合的に心情を捉えた深い読みができたと考えられる。しかし、学習活動の時間配分や発問のしかた、めあてに迫るためのタブレット端末の活用の仕方に課題が残り、意図した読み取りまで生徒を導けなかったと考える。今回の実践を生かして今後もさらに研究を重ね、登場人物を豊かに読み取ることができる生徒の育成を目指して自身の授業力を研鑽していきたい。